

で〜れ〜BOOKS 2017

で〜れ〜BOOKSとは、岡山の高校図書館による 高校生向けのおすすめ本 コンテストです。
 図書館には多様なジャンルの本があることを知ってもらいたい！という願いから、小説以外の本を選考対象としています。
 岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会が主催して毎年実施しており、今回が第3回目となります。

大賞 宇宙を撮りたい、風船で。 世界一小さい 岩谷 圭介 / キノブックス 僕の宇宙開発

著者からメッセージをいただきました！



一緒に未来を担う皆さまへ

やりたいこと、好きなこと、をやってみよう、続けよう。しくじることある、ダメになることもある。そんなときは考えて、またやってみよう。諦めずに向き合っていれば、一歩、一歩進んでいける。そして、少しずつ力になっていく。ふと気が付くと、始めたときより、ずっと近づいている。最初から全部ができなくてもいい。どんな遠くの目標も、最初の一歩から。

だから、「やってみる」から、はじめよう。

岩谷 圭介

【おすすめコメント】 気になったことをまずやってみて、必要な失敗をたくさんして。著者のフットワークの軽さが素敵です。／『やってみよう。』という「思い」と実現に向けての「行動力」が高校生の夢を応援する本。／若い著者の挑戦の過程から、ものづくりに取り組む姿勢のヒントがもらえる本です。／楽で効率のよいマニュアルを安易に求めがちな時代に、自分で考えてやってみて失敗することの大切さを思い出させてくれる本でした。／まずは「やってみよう」そして「失敗することの大切さ」。風船で宇宙を撮影する取組みに、夢を持ち挑戦することや困難を乗り越えていくことなど、高校生に伝えたいメッセージがぎゅっと詰まっています。／若い時の夢の持ち方、実現へのステップなどが具体的に分かる本。何かのきっかけになり得る本だと思った。／挑戦すること。あきらめないこと。実現する喜び。体感して、自分の夢に向かってほしい。／夢は願っているだけでは叶わない。一歩を踏み出す勇気もらえる本。／夢を語って、その夢に関することを1つ1つやってみれば、やがては実現していくよ。明確な目標でなくても、ちょっとした興味からいろんな世界を広げてほしい。／失敗を重ねながら、自分なりの方法で宇宙に挑戦している著者。高校生のみなさんには、著者の「やってみよう、ダメでもいい」という実感のこもった言葉を糧にしてほしい。／正直言って優柔不断な「ダメ男」くん。でもそんな彼が「宇宙開発」をやっているのです。たくさん回り道をした彼の言葉は、聞きなれたものばかりだけれど心に響きます。

で〜れ〜BOOKS 2017



2位 16歳の語り部

雁部 那由多, 津田 穂乃果, 相澤 朱音, 佐藤 敏郎 / ポプラ社

東日本大震災の時、小学5年生だったある3人の高校生が、あの日を辛かった過去にせず、学びに変えるために立ち上がり、未来を見据える。／東日本大震災を多感な時期に経験した彼らがどんなことを考えてきたのか、同世代の彼らが語る言葉を受け止めてほしい。／鳥取でも大きな地震もあった今年、生徒たちにもぜひ読んでほしい。見守ることの大切さと難しさにも気付かされました。／被災者の気持ちの移り変わりが率直に語られていて、すっと心に入ってくる感じでした。／高校生のうちに読んで、何かを感じてもらえたら。／同年代だからこそ、真に迫るものがあるはず。何事もなく（悩みなどはあるだろうけど）過ごしている子たちに読んでほしいなあと思います。／つらい記憶だからためらうかもしれませんが…でも忘れてはいけないし、そして同じ高校生が語っているからこそ、聞いてほしい。／自分たちと同世代の高校生が語る話は、何より同じ高校生の心に深く届くのではないのでしょうか。「あの日、あのとき。小学5年生だった」それを今、自分の言葉で発信している高校生の姿ごと受けとめてほしい。／あの時感じていたそれぞれの気持ち、語ってくれてありがとうと言いたくなります。／同年代の語り手が、あの時何を思ったか、あれからどう生きてきたか。自分に置き換えながら読んでほしい。読めば絶対に震災いじめなんて起こるはずがない。／震災のとき何を考えたのか、飾り気のない生の声が語られている。同年代の彼らの気持ちをしっかり受け止めて欲しい。／あの時子どもが感じていたそれぞれの気持ち、語ってくれてありがとう。

で〜れ〜BOOKS 2017



3位 ちいさなちいさなベビー服 八束 澄子 / 新日本出版社

寄り添い、心を配るとはどういうことなのか教えてくれる本。地元の話なので読みやすい。／産まれてくる命と亡くなった命。その2つがあることを忘れないでほしい。医療系に進む生徒以外にも読んでほしい！！／小さな命とその家族に対して、こんな風に温かく寄り添う活動があることに感動した。これから看護の道へ進もうとしている高校生たちに、ぜひ知ってほしいと思う。／自分が無事に生まれて生きているのはすごいことなのだ、と改めて感じました。／赤ちゃんが産まれてくる、って実は大変なこと。今ここにいることは、奇跡のようなものなんだって、ちいさなベビー服から感じてほしい。／死の隣に生があること、悲しみがあるからこそ、今生きている命のかけがえのなさがあることが、じんわりと伝わってきます。手芸ボランティアで悲しみに寄り添うという活動を高校生に伝えたい。／自分の身近な病院で、このような小さな命をめぐるドラマがあったことに驚きと誇りを感じました。／亡くなった赤ちゃんの服を作るボランティア岡山のことなのに知らなかった。出産経験のない私は、このボランティアの必要性にも気づかなかった。知らないことに目を向ける大切さ、高校生の皆さんにも感じてほしい。／誰かを「思いやる」ことの素晴らしさ、「心に寄り添う」ことの難しさを知った。／地元の病院の話だからこそ、ぜひ色々な人に読んでほしい。

で〜れ〜BOOKS 2017

好奇心を“天職”に変える空想教室

植松 努

サンクチュアリ出版



大人になったから響く、という部分も多少あるかもしれませんが、この本を若い時に読めたら良かったと思います。／生徒を見ていると「夢を持つ」ということが死語になりつつあるようにも思われます。学生の時にこそ、自分の好奇心を豊かに育ててほしい。／「好奇心」を「夢」を原動力に、自分を社会を変えていくヒントがたくさん詰まっています。／自分にとってなぜか心引かれる方向を大切にしていきたいと思いました。／何事もあきらめてはいけない、今からでもやってみてごらんと背中を押してくれる本。／就職する生徒、進学する生徒、いろいろな進路があるが、この先自分の気持ち次第でやりたいことが実現できる。可能性はひろがっている。／思うは招く一夢を叶えるためにどう考えどう行動するか。ヒントになることがたくさん書かれていて元気が出ます。／将来の夢を「職業」でしか考えていない生徒が多いと思いませんか。そんな生徒に手渡したい。 **でーれーBOOKS 2017**

がさつ力

千原 せいじ

小学館



失敗を恐れてか、大きな夢や新たな挑戦に対して消極的な高校生の姿が気になります。千原さんの大らかな気持ちにふれ、一歩踏み出す勇気を持ってほしいと思います。／煮詰まった時に、背中をバンと叩いて励ましてくれるような、気分が上向き一冊。／あれこれと悩んでばかりで終わるのではなく、行動してみる、話しかけてみる。それが大事。／若い世代にありがちな行動について、「それよりも、こんな風に考えてみんか」というシンプルなノリで、再考を促す本。分かりやすく読みやすく、それでいて軽すぎることなく絶妙。／著者のポジティブな生き方は、自分の世界をどんどん広げるためのコミュニケーションツール! つまりがさつ=前向きに挑戦すること!／ぶっちゃけトーク満載で面白いのにときどき耳が痛い、ただがさつなだけじゃなかったんだ。世界のどこに行っても相手が誰であろうとその懐に飛び込んでいく、強心臓ぶり知られる千原せいじさんのコミュニケーション論。 **でーれーBOOKS 2017**

でーれー
BOOKS

2017
高校生向け
でーれ一本。



18きっぷ

朝井 日ウ; 朝日新聞社

朝日新聞出版



夢を追う若者の姿は、きらきらに輝いて眩しく目に映る。高校生は、この先何にでもなれる可能性を秘めているのだと思われた。／もし進路で悩んでいたなら、これからどんな人間にだってなれるんだって思ってほしい。／18歳で選択する未来への切符。その表情はみんな清々しい。／いろいろなことを思い、考え、選択し、生きている18歳がいるんだということ、知ってほしいです。／「18歳の選択」を表現した写真集。進路を決める=人生の岐路に立たされているみなさんに読んでほしい。悩んでいるのはあなただけじゃない。／それぞれの選択がどんな未来につながっているかは誰にも分からないけれど、大事なものは未来を自分で選び取ることだ。本書に登場した若者の顔を見て、そう実感した。／18歳で選択する未来への切符。進路に勇気をもらえる写真集。／夢を持つ18歳がいます。1年後、同じ夢を追いかけていなくても、今の自分が持つ思いを大事に、一日一日を過ごしてほしいと思います。 **でーれーBOOKS 2017**

ミライの授業

瀧本 哲史

講談社



安い人が選ばれる時代に、自分を売りたいために。1冊ものの伝記に抵抗がある人にもおすすめ。／未来をつくっていくのは10代の君たちだよ、というメッセージを、過去の偉人に学びながら伝えている点に大変好感を持ちました。／未来志向な内容もいいが、本の構成が素晴らしい。重要な部分にはマーカーで色分けされていて、各章末には「まとめ」がついている。面白かった! 「若いから大きなことはできない」ではなく「若いからこそ世界を変える力を持っている」と思わせてくれる本。／偉人の成功例や失敗例を紹介しながら、若い世代へミライを生き抜く方法を示します。どれだけ個が優れていても、活かし方や仲間との連携を間違えると、成功には繋がらない。常識を疑い、証拠や事実を積み重ねながら、新しいミライを作ってほしい。そんな気持ちを中高生に向けて語った作品です。／タメになった、本を読んで良かった、的な本。「(小説じゃない)何かいい本ないですか」に応えられるんじゃないでしょうか。 **でーれーBOOKS 2017**

転換期を生きるきみたちへ

中学生に伝えておきたいたいせつなこと

内田 樹 編 / 晶文社



言葉や政治、社会などの観点から、これからの時代を生きる若者へ向けた知恵と技術がつまったメッセージ集。／進学するにしても就職するにしても、流されるままではなく、今の「社会」のことを考えながら生き抜いてほしい。／自分のこと、社会のことを自分の頭で考える、きっかけにして欲しい。／内田樹、加藤典洋、高橋源一郎、白井聡、鷲田清一等々。現代を代表する各界のトップランナーが中高生の皆さんに伝えたい「大切な事」とは? 一冊で何度も目からウロコが…!! **でーれーBOOKS 2017**

見てる、知ってる、考えてる

中島 芭旺

サンマーク出版



10歳でここまでの考え方ができるのはすごい。自己啓発本への最初の一歩として薦めたい。／単純! だけど、だからこそ、グッとくるものがある。／思わずハッ! / 10歳の子が書いた本ですすでに話題ですが、本書はこの子が大人びた言葉を使えるから評価されているわけではなく、むしろ「子供の目線」を言葉にしていることに意味があるのだと思います。「おなじばしょでもちがうほうこうをみればまたちがうけしきみえる」。すべてひらがなで書かれた言葉に、納得してしまいます。 **でーれーBOOKS 2017**

18歳からの選択

社会に出る前に考えておきたい20のこと

上木原弘修; 横尾俊成; 後藤寛勝

/ フィルムアート社



「知って、考えて、選択できる人」になってほしい。／民主主義、18歳選挙権、高齢化、結婚・子育て、人工知能、格差問題など全20項目について、多様な考え方をまとめた一冊。／これから社会にでる若者が世の中に関心を持つきっかけになるとともに、入試対策にもなる一冊です。／18歳選挙権が導入された今、日本のこれからの課題について考えるきっかけになる本だと思う。 **でーれーBOOKS 2017**